

癒しの時間を求めて

沖縄の渡嘉敷島で
一棟貸し別荘「MIUFUYA」を開業



沖縄の守り神
かわいい
シーサーが
お出迎え

私が求めていた癒しの生活とは？

癒しを求めて移住したはずの離島で、いつの間にか自問自答を繰り返す日々。そんな私が30年勤めた公務員を退職し、昨年の秋、一棟貸しの宿のオーナーになりました。

私が「癒し」について考えるようになったのは、短大生のとき。夏休みに「北海道で人参掘りをしませんか？」という求人を見つけ、興味本位で応募したアルバイトが、今の生活につながっているのだと思います。北海道の雄大な自然に圧倒され、それまで生まれ育った「米軍基地の街コザ」の騒音の中での暮らしとは、まるで正反対のゆったりとした時間が流れていました。

そんな経験がきっかけで田舎暮らしに憧れ、沖縄県那覇市から30キロ離れた人口約700人の渡嘉敷島へ移住。保育士として働き始めました。

いまでこそネット環境も整い島にいても通販で欲しいものが手に入る時代ですが当時の生活は想像以上に厳しいものでした。服屋や娯楽施設はなく船は1日1便、海が時化ればすぐに欠航し、食料すら手に入らないことも。「ないものは作るか、諦めるか」。そんな生活が自然と身につきました。

移住して3年で結婚し、3人の子どもに恵まれました。しかし、島の保育所は常に人手不足。気づけば仕事のことはばかり考え、自分の子どもと過ごす時間も取れず、申し訳ない気持ちでいっぱいでした。

ホルモンバランスが崩れ、常に体調不良。仕事は楽しく元気な先生でも、家に帰ると無気力とイライラの繰り返し。夫の協力に助けられました。さらに、島には高校がないため、子どもたちは15歳で島を離れます。その後も大学進学で上京し、私たち夫婦は渡嘉敷島に残る。そんな三重生活を支えるため、島



01



02

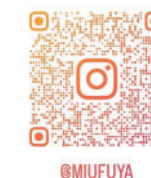


03



04

01. 沖縄県渡嘉敷島に一棟貸し別荘「MIUFUYA」を開業
02. アロマクラフトのワークショップを楽しんでいただいています
03. 昔からある井戸を復活させました
04. 発酵料理士協会の会員の皆さんとの交流会（沖縄イベント会場にて）



Tomomi Asato
安里 伴美

Cottage in Tokashiki MIUFUYA オーナー
沖縄県島尻郡渡嘉敷村字渡嘉敷65番地
Tel.090-8415-3128
E-mail: miufuya65@icloud.com



で仕事を続ける選択をしました。そうして働き続けるうちに、ついには体を壊し、ヘリコプターで緊急搬送されることも。入院と手術を繰り返しながらも、「いつ仕事復帰しますか？」と期待されることに好きな仕事にやりがいを感じ、ひたすら走り続けていました。そして、気づけば子どもたちは社会人。ちょうどその頃、主人の実家が空き家になり、取り壊す話が出ていました。

「私が本当に求めていた癒しの生活とは？」

改めて考えたとき、ずっと心の奥にあった「癒しの空間をつくりたい」という想いが強くなり、退職を決意しました。

退職後は、自分のために時間を使おうと思い、友人の勧めでアロマコーディネーターの勉強を始めました。学ぶうちに、呼吸を整えること、自分の体と向き合うことの大切さを実感。そして何より、アロマの香りに包まれたとき、久しぶりに「癒されている自分」に気づきました。

2024年9月、私の思い描いた癒しの空間は、一棟貸しの宿『MIUFUYA』という形に。さらに、アロマコーディネーターの資格を活かし、アロマクラフトのワークショップサロンも始めました。

島では珍しい一棟貸しの宿ということもあり、ご利用いただいたお客様からは「贅沢な時間を過ごせました」と嬉しい声をいただきます。

また、ワークショップでは、ご自身の求める香りを通して、自分の心や体と向き合うきっかけを得る方も多く、気づけばお悩み相談の聞き役になり、何時間も話し込むこともあります。

「自分が一番疲れていたときに、アロマに出会えていたら」

そんな思いがあるからこそ、MIUFUYAがアロマとともに、癒しの空間として地域に貢献できればと願っています。

今年1月には、JAA日本アロマコーディネーター協会と発酵料理士協会の懇親会に参加しました。全国から集まった会員の皆様の活躍に刺激を受け、発酵料理の可能性にも興味が深まっています。アロマをきっかけに、知らなかった世界に足を踏み入れ、毎日が刺激的になりました。

今は小さな畑を借り、野菜やハーブを育てながら、アロマとともに過ごす日々。「癒しの空間をつくりたい」と願い続けた私の新しい生活が、ここに 있습니다。